

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4392800134		
法人名	社会福祉法人慈光会		
事業所名	グループホーム津森倶楽部 まどかユニット		
所在地	熊本県上益城郡益城町大字寺中1番地1		
自己評価作成日	平成27年2月28日	評価結果市町村受理日	平成27年4月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社アクセス		
所在地	熊本市南区八幡9丁目6番51号		
訪問調査日	平成27年3月17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所は益城町の東部に位置し、山川や田畑を一望できるのどかな環境にあります。この穏やかな環境で、これまで送って来られた生活を入居後も継続できるように個別ケアに重点を置き、たとえ認知症となってもその人らしく暮らせるようにできるだけ「行きたいところへ行ける」、「したい事ができる」よう支援しています。日常においても入居者の年代に馴染みのある食事やイベントを企画し、暦とともに季節を感じて頂ける暮らしを送っています。また多くの温かい地域の皆さんに支えられ、一つの家として沢山の地域行事に参加しており、近隣の方や子供達も日常的に訪問しているアットホームな事業所です。今後も地域の灯りとなるようスタッフ一同明るい笑顔をもって日々努力しております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は開設3年ですが、地域の一員として日常的に交流しています。地域の主な行事である農道公役、用水公役そして地区道路公役などに積極的に参加しています。20年に1度しか行われな津森神宮の御神幸祭には、入居者と一緒に参加したそうです。また事業所には、交流スペースが設けられており、地域の寄り合いなどに利用されています。このように地域とのふれあいや、地域に門戸を開放した取り組みが地域の方々に受け入れられ、毎日のように近くの方が立ち寄られています。さらに、懸案だった災害時の応援要請にと、地区放送機が区長の肝いりで、事業所に取り付けられています。事業所の理念には、「地域とのふれあいの大切さや、誰もが気軽に立ち寄れる家を目指します。」と謳われており、まさに理念の実践に他ならないと思います。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「津森倶楽部を利用する事で心安らぐ生活が継続できる事」を根幹に開設時に職員で事業所独自の理念を作成。複数箇所に掲示し理念に基づいてケアが出来るよう常に意識付け、年2回の個人面談時に理念の意義を再度確認している。	理念は、「その人らしい、心安らぐ生活がいつでも送れるように支援いたします」という方針のもと、具体的な支援方法6項目で構成されている。開設時に職員で話し合い、認知症ケアに取り組むひとりひとりの思い、また利用者目線での支援が盛り込まれたものとなっている。玄関をはじめ、複数ヶ所に掲示し、いつでも振り返れるようになっている。また、実践状況については、年2回の個人面談時に再確認を行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	区長や民生委員、地権者等からお声掛け頂き、入居者の方と一緒に多くの地域行事に参加させて頂いている。また地域の一軒の家として区費を出しており、公役や会合等も積極的に参加。また野菜を頂いたり日常的に交流している。	事業所は、津森地区の一軒の家として、地域の方々を受け入れられている。区費も支出しており、農道公役や春の用水公役、また地区道路公役などへも積極的に参加している。また、区長や民生委員、元地権者の方などがとても友好的で、地域の行事である津森神宮の催しやどんどや、夏祭り等へも利用者と一緒に参加している。	
3		○事業所の方を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地区、農道公役に参加し清掃活動を行ったり、事業所内の各種イベントへ地域の方を招待している。他に小学校の社会科見学やワークキャンプの受け入れ、会合等への地域交流ホールの開放や、かけこみ避難の家指定を受けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では入居者の状況、外部評価の結果報告等を行っている。また、評価の中で課題となった災害時の応援要請の方法として区長さんと相談、地区放送器を設置して頂いた。	会議は、偶数月の第4火曜日に開催している。メンバー構成は、役場職員、地域包括支援センター職員、区長、民生委員、校区老人会長、地区老人会長、元地権者、家族代表、入居者、在宅支援センター職員などとなっている。会議の内容としては、入居者の状況や事業所の取り組み等について報告し、意見や助言をもらっている。地域の有力者の方々の出席も多く、地域の情報を知る良い機会となっている。また、事業所としても外部講師による講話等も取り入れ、活性化に取り組んでいる。	玄関に地区放送機が設置されており、事業所が地域の一員と認められている証だと思います。今後は、緊急時における近隣の応援体制づくりが具体化すれば良いと思います。

グループホーム津森倶楽部 まどかユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議を通して町担当者との意見交換や助言を頂く機会があり、困難ケースがあればいつでも相談できる関係が築けている。また災害ボランティア養成講座、キャラバンメイト養成講座等も案内頂き積極的に参加している。	運営推進会議では、事業所の実情や取り組み等について伝えており、意見交換をしたり、助言をもらったりしている。また、困難ケースや判断に迷うことが発生すれば、いつでも相談できる関係を築いている。また、キャラバンメイト養成講座には管理者が参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について、職員研修を行った。職員自身が身体拘束について調査し、情報発信する事でより身近な問題として理解を深める事が出来た。また、玄関は昼間は常に解錠しており、自由に往き来出来る環境にある。	事業所では、身体拘束をより身近な問題として捉え、理解を深めようと職員自身が調べ、勉強会を行っている。その他にも、タイムリーな新聞記事や研修会資料を用いた勉強会も行っている。リーダーの話しでは、特に言葉による拘束に気を付けているということであった。	言葉の拘束については、言っている本人さえ気づかないことが多々ある様な気がします。他の職員が気づいた時は、教え合える関係づくりを、是非進めて欲しいと思います。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月、リスクマネジメント委員会を開催し、ケアの振り返りを行っている。また虐待について、職員研修を行った。職員自身が虐待について調査し、情報発信する事でより身近な問題として理解を深める事が出来た。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護について、職員研修を行った。職員自身が権利擁護について調査し情報発信する事で、より身近な問題として理解を深める事が出来た。今後制度の利用についてはまず必要性の検討を話し合っていく事が課題。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に事前オリエンテーションを実施し、契約内容、重要事項を説明。2週間以上の入院加療が必要な際は退居となる事、退院時の生活の場所(介護サービス)の紹介を行う旨説明し同意を頂いている。		

グループホーム津森倶楽部 まどかユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関にご意見箱を設置。担当者会議や面会時に意見をお聞きし、苦情が出た場合には、書面にリスクマネジメント委員会で解決策を検討、家族へ説明し職員への周知を行っている。また年度末に家族との意見交換会を実施している。	担当者会議への家族の出席率は、とても良いようである。その時には、要望や苦情等があれば、聞き取りを行っている。また、日頃の面会時を通じて、声掛けを行っている。問題が発生した場合には、管理者・ケアマネジャー・各ユニットのリーダー4者によるリスクマネジメント委員会で解決策を検討し、家族への対応を行っている。	家族からすれば、内心思っていることがあっても、なかなか本音は言いにくいと思います。日頃から家族とのコミュニケーションを大切に、何でも言える環境づくりに取り組んで欲しいと思います。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回ホーム会を行い、職員全体で業務内容に関する事などの意見交換をする場を設けている。	毎月、第2木曜日にホーム会を行い、業務内容等に関する意見交換を行っている。ホーム会の司会進行は、職員が順番で担当している。また、他の職員の前では、発言しにくいことなども考慮し、必要に応じて個別対応を行っている。これまで、ホーム会で総意として、スキルアップのための雑誌購読を始めたり、年2回の消防訓練を毎月に変更したり、交流スペースの椅子の置き方に改善を加えたりしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	賞与支給時は自己評価を行い、各自の目標設定を行っている。また支給前に管理者と面談、把握評価をし賞与へ反映している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症ケアに関する研修会に積極的に参加させ、ケアの向上に努めている。また、受講者はホーム会の中で他職員への復命を行っている。また毎月1回事業所内で勉強会を実施し、情報や知識獲得に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県宅老所グループホーム連絡会主催の研修会に参加し、横のつながりを持ち、情報の共有に努めている。また協力医療機関のもつグループホームとの交換研修を毎年行っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居に不安をもっておられる方には事前見学を積極的に受入れ、雰囲気を見て頂く事で不安解消に努めている。入居後は個別的な要望に対処できるよう全ての入居者に担当職員を配置している。		

グループホーム津森倶楽部 まどかユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の事前オリエンテーションを通じ、事業所の重要事項、契約内容説明して同意を頂いている。その際に、要望等も積極的に耳を傾け、プランに反映させている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	インテークの段階(初回面談時)や入居前に事前訪問を行い、必要に応じて他の介護サービスの紹介を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事の際は、同じものを同じテーブルで食べて生活環境を同じにし、好みの食べ物等アットフォームな語らいの場になっている。またそれぞれの得意分野で洗濯たたみ、干し、お盆拭き、調理、作品作成など共に行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時やお電話で日々の様子を話したり、相談している。また病院受診も協力して頂き、家族も一緒に支援しているという意識を持って頂いている。行事にも積極的にお声掛けし、参加して頂いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域の行事やサロンに参加し、顔なじみの方とお会いする機会を作る事で、いつでも友人、知人に遊びに来て頂いている。	津森神宮の催しに参加したり、近くの公民館で行われるアヤマサロンに参加することで、友人・知人が尋ねて来られるきっかけになっている。また老人会の方が、“元気にしとるね”と来られることもあったり、近所の方がよく尋ねて来られ、とても助かっているとの事であった。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員の見守りの中で入居者が食事の介助や片づけの手伝いをする事がある。入居者同士も相性や社交的であるか否かなどの性格が一人一人違う為、席の配置を工夫している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も御家族にお手紙、ハガキ、写真アルバムをお渡しする等しており、契約終了後も地域の繋がりとして気軽に訪問して頂けるような雰囲気作りに努めている。また、定期的に病院や退居後の生活の場所を訪問して状態の把握を行っている。		

グループホーム津森倶楽部 まどかユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	管理者が入居前の利用施設や自宅へ出向き、面談を行う中で、暮らしぶりや意向把握を行っている。入居後は、担当職員が密に関わりをもつ事での日々の会話や家族との対話を通じ意向を把握している。	最初の段階は、利用施設の介護職員からの聞き取りや自宅で面談を行う中で把握するようにしている。入居後は、担当職員が24時間シートを利用しながら、日々の会話や家族からの情報をもとに把握に努めている。一人だけの視点ではなく、何人かで見える中で、“こういうことも出来た”など、見えてくることもあるということであった。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時のアセスメントシートや日々の関わりの中で情報収集出来るよう努めている。また面会時に情報収集できるよう担当職員を通じ積極的に御家族とコミュニケーションを図っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	担当職員にて本人や家族の意向をもとに作成した24時間シート参考にしながら思い思いに1日を過ごして頂き、日々の様子、体調を経過記録にして職員間で申し送りを行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当職員にて3ヶ月毎のモニタリング、6ヶ月毎に御家族を交え担当者会議を行い本人、家族に思いを聞き、介護計画を作成。事故発生時や状態変化時は見直しを行い、追加、削除を行っている。	入居当初の介護計画は、本人と面会した上で、出来ること、出来ない事、精神状態またサマリー等を参考に作成し、3ヶ月を目安としている。その後は、6ヶ月毎に家族を交え、担当者会議を行い、本人・家族の思いを確認し、介護計画を作成している。また月に1回は、理学療法士によるリハビリ指導も行われており、必要に応じて相談を行っている。モニタリングについては、担当職員が3ヶ月毎に行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の経過記録を記入し、申し送りノート活用し朝夕の申し送りを行う事により職員全員が情報共有し、毎日のケアや介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	買い物、散歩、外食や実家や自宅へ帰省、本人の希望に応じ柔軟に外出支援を行っている。また受診等家族が付き添い困難な場合は同意の下職員で付き添いを行い、家族や医療機関との連携を行っている。		

グループホーム津森倶楽部 まどかユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	小学校からの発表会への招待、お寺の住職さんの法話、地域サロンに出掛ける等の付き添い支援を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的に入居以前から通っていた病院へ通院して頂いている。かかりつけ医の対応時間外に受診希望する医療機関を家族、本人へ確認しており緊急時は時間を問わず、協力病院にて対応してもらえるよう連携している。	基本的には、本人・家族が希望するかかりつけ医の受診を支援している。その際の付き添いについては、家族の対応となっている。ただ、家族が遠方で対応できない場合には、職員が対応している。時間外かつ救急車を呼ぶ必要がないと判断した場合には、協力病院と連携を取っている。現在、認知症の専門医を受診している方は、両ユニットで4名程おられる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員の配置がない為、必要に応じ、かかりつけ医の看護師や法人施設の看護師の助言を受けているが基本的には少しでも体調に異変がみられた際は、かかりつけ医へ連絡し、指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院となった時点で、主治医や家族に連絡を取り病状、今後の治療方針の確認を行っている。また少なくとも1週間に1回は入院先を訪問し、状況を確認するようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現在、終末期対応は行っていない。入居の際や定期カンファレンスの際に重度化や終末期に対してホームが出来る事などを家族へ説明し了承を得ている。重度化した際の受け入れ先として協力医療機関や関連施設と毎月1回会議を行い、連携している。	終末期の対応は行っていない。毎月、ユニット会議を行っており、むせが多くなり誤嚥の危険性が高まったり、日常的に医療行為が必要となった場合や入浴の際の浴槽の端をまたげなくなったりした場合などには、事業所としては出来ること出来ない事を家族に説明し、了承を得ている。また、重度化した場合の対応についても、受け入れ先と毎月1回会議を行いながら連携の確認を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時のマニュアル等を整備しており、それに則った対応を行っている。今後は研修会等を開催し、各自が自信をもって適切な対応が出来る事が課題である。		

グループホーム津森倶楽部 まどかユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月1回防災訓練を実施し日頃から全職員が速やかな対応が出来るよう努めている。年2回の総合訓練時には区長さんや地域の方も参加している。今後は近隣の応援者を増やすことが課題。	年に2回、消防署指導のもと総合訓練を行っているが、職員からは2回では不安という声があがり、毎月訓練を行うようにしている。総合訓練には区長、元地権者、老人クラブ会長などの協力が得られてる。非常時の備えについては、飲料水、インスタントラーメン、レトルト食品、カセットコンロ、発電機などとなっている。	訓練を毎月行っていることは、とても素晴らしいと思います。テレビによく出ている防災アドバイザーは、実際の災害を前にすると、訓練以上の力を発揮することは難しいと言っています。今一度、訓練に取り組む姿勢の再確認をお願いします。合わせて近隣の応援体制づくりにも注力してください。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入浴や排泄などは個別に対応し、介助が必要な時のみ支援を行っている。また、職員同士の申し送りの際には、固有名詞を出すことを不安を煽る為頭文字のみで対応している。排泄時の声掛けなどに関しては徹底不足な面も多い為、配慮する。	接遇に関する勉強会を行っている。尿失禁の対応については、「お茶をこぼしたから変えましょう」など、本人を傷つけないような配慮を行っている。また、一人一人性格が違いうように過去も違うので、フェイスシートを元にきめ細かな対応が人格の尊重につながるリーダーより聞かれた。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の中で自己決定が出来るように24時間シートを活用したり、日々の関わりの中で思いを聞き取り可能な範囲で希望に添った生活を支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人のペースを優先出来るように24時間シートを取り入れ、なるべく本人の希望に添った生活支援が出来るよう努力している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日の洗顔、整髪、ひげ剃りを鏡の前で行って頂けるよう支援している。外出時や入浴時などの服選びは選択して頂けるよう努力しているが職員本意になってしまう事も少なくないので注意する。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の皮むき、選別、食器洗い、片づけ等を一緒に行っている。また個人の誕生日には好物をお聞きし、お膳にして提供している。他に庭で育てた野菜を収穫したり基本的にその時期に旬な食材を提供、調理している。	調理は日勤の職員が担当している。じゃがいもやニンジンなどの皮むきのように、出来ることは一緒に行うようにしている。ちょうど訪問した日は、入居者の誕生日で、一緒に食事を頂きました。きざみやお茶のトロミづけなど、個別対応を行い、食が進むよう支援している。また事業所には家庭菜園があり、近所の方の支援を受け、旬の野菜を栽培している。収穫した野菜は、入居者の食事に使用されている。	

グループホーム津森倶楽部 まどかユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人施設在勤の栄養士の立てた献立メニューを活用している。嚥下力低下している方にはキザミの形態で提供している。水分摂取が少ない方にはお好きな飲料を提供し、一日摂取量を記録している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後歯磨きを行っている。最後に磨き残し等の介助が必要な方はお手伝いさせて頂いている。口腔内の状態確認を行い、必要時に往診をして頂いている。また歯科医院を招き、全体の口腔状態の確認を実施した。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄間隔を記録する事により、排泄パターンをつかみ、汚染を予防している。随時アセスメントを行い、使用する排泄ケア用品の検討を行っている。	排泄記録をつけることで、ひとりひとりの排泄パターンを把握し、汚染防止につなげている。その他、立ち上がる、おしりを浮かせる、食事がのどを通らないなどの固有のサインにも気を付けている。リーダーから部分介助の方についての話しあり、さりげなくさっと終わらせるようにしており、自尊心を傷つけることがないように心掛けているということであった。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表を活用し、おやつや食事に乳製品、食物繊維を提供しなるべく自然排便できるよう努力している。日々にケアビクス体操や腹圧マッサージを取り入れている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	24時間シートをもとに入浴時間の希望をお聞きし希望のある際に毎日入浴できるように対応している。就寝前の入浴も常時行っている。また個別で音楽を流したり入浴剤を使用。	入浴回数は、週に3回以上となっている。お湯はひとりひとり入れ替えており、自分のタオルを湯船につけてゆっくり楽しんでもらっている。入浴拒否の方もおられ、時間を置いたり、職員が代わって声掛けしてみたりと、いろいろ工夫している。無理強いは決してしないということが原則だということである。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	起床、就床時間は希望に添った時間で支援している。また日中も体調等をみながら居室、リビング内のソファ、和室など個人のくつろげる場所で、時には職員と共に横になったりして過ごして頂いている。		

グループホーム津森倶楽部 まどかユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人毎に内服一覧表を作成し、薬状書とセットで職員がいつでも確認できるようにユニット管理している。誤薬がないよう、職員間でダブルチェックを行っている。服用後も薬袋の確認を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居時や日々の中で生活歴や趣味をアセスメントし、外出、買い物、外食、カラオケ、家事、折り紙など個人に合った楽しみ毎を支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節毎の外出の他に買い物やドライブ、散歩など希望があれば出来る限り付き添うよう支援している。買い物等当日の対応が難しい場合は、本人に説明し、同意を得、担当にて後日、計画支援している。	季節毎の外出支援として、花見やコスモス・バラ・紅葉見物などに出掛けている。その他、日常的な支援としては、衣類や歯磨きなどの日用品の買い物、ドライブ、またすぐ近くの津森神宮への散歩などを支援している。	これから暖かくなり、うぐいすはさえずり、新緑が眩しい季節となってきます。出来るだけ外の空気を吸い、気分転換やストレス発散に取り組んで欲しいと思います。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分で管理が可能な方は少額を居室にて自己管理されている。その他の方は本人、御家族同意の下、事務室の金庫、出納帳にて管理、買い物時は本人が自由に使用が出来ている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は、希望がある際、事務室にていつでも使用して頂いている。必要性があれば職員は本人の同意の下、横に付き添う。お手紙の返事も職員がお手伝いをしながら遠くの御家族等に返事を出されている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	テーブルに季節感のある花を飾ったり、季節を感じて頂けるように入居者と一緒に壁掛けカレンダーを作成し掲示したり、季節の装飾を行っている。またPS放射冷暖房を設置する事で、快適な室温調整行っている。	事業所は、外玄関から内玄関までの共用スペースにも十分な空間が設けられており、季節を感じさせる菜の花や椿の花が飾られている。また、入居者の皆さんが集われるダイニングにも、すいせんや菜の花、椿の花などの春を代表する草花が飾ってあり、とても家庭的で和やかな空間となっていた。また、室内環境にも配慮してあり、とても家庭的で和やかな空間となっていた。室内環境にも配慮しており、PS放射冷暖房の設置や加湿空気清浄器、加湿器の設置も行っている。	

グループホーム津森倶楽部 まどかユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	和室やソファで、横になるなど個人で自由に過ごして頂いたり、ウッドデッキ、または隣のユニットへ自由に行き来し、気の合う方同士の語らいが可能になるように支援している。また一人で利用できるテーブル、廊下にイスも配置している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今迄使用しておられた布団、家具をお持ち頂いたり、仏壇に写真等飾っている方もおられるが設置棚が有効活用できる為まだ殺風景に感じる居室もある。ゲスト感を出さない為に居室前の表札はあえて敬称を外している。	居室の基本的な設備は、空調機器、ベッド、クローゼットとなっている。寝具や家具・その他日用品等については、これまで使い慣れたものを持参して頂く様、話をしている。お釈迦様やテレビを持って来ている方もおられ、居心地良く過ごせる様工夫されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	全面バリアフリーになっており、トイレは車椅子の方でも移動がしやすいよう、広々としている。個人の動線や安全性、相性を考慮しテーブル配置している。また居室や浴室、トイレの入り口に目印を飾っている。		